

「第4回日韓河川生態セミナー」参加報告

研究第四部 主任研究員 大橋 伸之



1. はじめに

「第4回日韓河川生態セミナー及び周辺地域の現地調査」が平成18年7月17日、18日に大韓民国光州市で開催された。日本から大学関係者を中心に15名が参加し、日韓両国の研究者が河川生態等に関する研究発表・意見交換、韓国の河川再生事業の現地調査等が行われた。

2. セミナー・ポスターセッション

7月17日に開催されたセミナーでは日韓両国から河川生態等に関する研究12編の論文発表と11のポスターセッションが行われた。著者は日本の多自然川づくり取組みと今後の施策（多自然川づくりレビュー委員会提言）について発表を行った。



写真-1,2 セミナー・ポスターセッションの様子

3. 現地調査 Gwangju-cheon (光州川) と Jangheung-Dam

(1) Gwangju-cheon

光州市の中心を流下するGwangju-cheon (C. A 120km²)で洪水防御(200年確率)、自然再生を目的に河川浄化、維持流量補給、護岸整備(下流の都市部は親水整備、上流は自然再生等の事業を行っている。事業延長は約20km、事業費600億ウォン、事業期間は約60ヶ月である。Gwangju-cheonは河川水が伏流するため、最下流の広域下水処理場での処理水(100km³/日)をポンプアップし、維持流量として放流している。このための電気代は年間13億ウォンで光州市が負担している。

(2) Jangheung-Dam

韓国の南西を流下するTamjim-River(C. A=493km²)の上流に位置するJangheung-Damは多目的ダムで総貯水量191百万m³である(集水面積192km²、堤長403m、堤高53m、事業費6,360億ウォン)。ダム周辺には公園等の周辺環境の整備の他、生態系の保全・再生を目的に湿地等の整備を行っている。



写真-3,4 Gwangju-cheon(左)、Jangheung-Dam(右)



写真-5,6 GJangheung-Damのダム湖上流端の湿地再生

4. おわりに

今回のセミナーにおいては両国の河川・生態系の研究者及び技術者が意見交換、技術交流を行い大変有意義であった。

最後に本セミナー開催にご尽力頂いた主催者側のKICTのWoo博士を中心とする韓国河川生態研究グループの皆様、日本側の代表を務めた名古屋大学大学院の辻本哲郎教授及び関係各位に深く感謝申し上げます。



写真-7 集合写真